

牛海綿状脳症(BSE)対策

牛海綿状脳症とは

牛海綿状脳症(Bovine Spongiform Encephalopathy : BSE)とは、牛以外のヒトを含めた他の動物にも見られる伝達性海綿状脳症(Transmissible Spongiform Encephalopathy : TSE)という未だ十分に解明されていない病気の一つで、牛の脳にスポンジ状の変化を起こし、起立不能等の症状を示す遅発性かつ悪性の中枢神経系の疾病。

プリオンという細胞タンパク質が異常化したものが原因と考えられている。

我が国におけるBSE対策

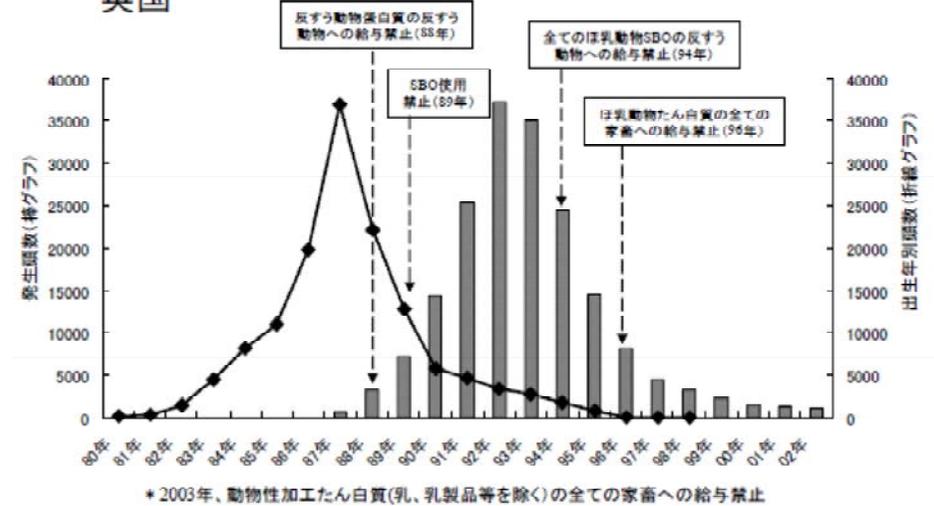
○発生国からの輸入禁止(二国間で輸入の合意が得られた場合を除く)

○食用牛、死亡牛のBSE検査の実施

(注)平成17年8月に、と畜場におけるBSE検査の対象を、すべての牛から21ヶ月齢以上の牛に限定するに当たって、生じかねない消費者の不安感を払拭するとともに、生産・流通の現場における混乱を回避する観点から、経過措置として、自主的に行われる20か月齢以下の牛の検査についても国庫補助を継続し、平成20年7月末をもってこれを終了したところ。

○特定部位(頭部、せき髄、回腸遠位部)の除去及び焼却と特定牛(発生国の牛等)のせき柱を原材料とした食品等の販売禁止

英国



平成16年3月26日第7回プリオン専門調査会(食品安全委員会)資料より

国別・地域別	BSE罹患牛頭数	変異型CJD患者数
英国	184,600	170 [*] (うち166名死亡)
フランス	1,011	25
アイルランド	1,646	4(うち2例英国滞在歴あり)
イタリア	144	2
オランダ	85	3
日本	36	1(英国滞在歴あり)
カナダ	19	1(英国滞在歴あり)
米国	2	3
ポルトガル	1,069	2
スペイン	760	5
スイス	464	0
ドイツ	419	0

※英国の変異型CJD患者数は、中国(香港)例を含む
BSE罹患牛頭数:国際獣医事務局ホームページ等抜粋(2010年6月)
変異型CJD患者数:UKCJDSU(英国保健省報告)より(2010年4月7日)(うち2例は在米英国人、1例は在米サウジアラビア人)